

事業報告書

2025 年度（令和7年度）

学校法人倉橋学園
キラリ高等学校

1. 教育の取り組み

内容	実施状況・課題
(1) 静岡県で最初に認可された狭域制私立通信制高校として様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。 ① 基礎学力の確実な定着を図る為、各教科担当間のコミュニケーション量を増やし、情報を共有した上でより分かりやすい授業を展開する。生徒・保護者面談を通し、主体的に学習に取り組めるように導く。 ② 学校内はもとより、校外での生活指導も継続して実践・強化し、基本的な社会性・モラル・社会通念上の規範意識の徹底を図る。 ③ 遠足・修学旅行・文化祭などの特別活動や校外スクーリングをより充実させ、多くの生徒が積極的に関われるようにする。(全体での体育祭開催) ④ 進路選択において必要な基本的な知識・技能を育成し、進路決定を自ら推進できるように導く。 (2) 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、より細やかな指導を行う。 ① 困難を有する多様な生徒(不登校傾向・問題行動・発達障害等)が積極的かつ十分な教育を受けられるように、学習に対する動機付けや学びの意欲を喚起できる教員の養成を行う。(スクールカウンセラーの活用) ② 個別対応、部活動、キャリア教育、インターシップなどの分野に十分に対応できる教	(1) 静岡県で最初に認可された狭域制私立通信制高校として様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。 ① 生徒、保護者面談を随時実施し、主体的に学習に取り組むための道筋を考えることができた。教科内の情報共有を徹底し、生徒の実態に即したレポートを作成した。基礎学力の定着にはもう少し時間がかかる。 ② 生活習慣について日々のかかわりや式典、面談などで話しをする機会を多くしたこと、年を追うごとに規範意識は高まってきていると感じる。学内だけでなく郊外での状況も把握し、生徒指導ができた。 ③ 遠足・修学旅行・文化祭・校外学習等の参加は年々多くなってきている。友達作ろう会/テストが不安なあなたへ会など個々の生徒に対するイベントも多く行うことができた。文化祭・体育祭も過去最大動員になり、義援金(募金)額も100万円を越える寄付ができた。 ④ 1年次からの呼びかけにより進路選択への意識は高まってきている。総合的な学習の時間などで外部企業(講師)を呼び、個々の適正にあう進路や職種を考える機会も増やした。 (2) 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、より細やかな指導を行う。 ① カウンセラーに同席してもらい、カウンセリング記録を活用しながら面談指導をし、生活面や学習面で困難を抱える生徒への個々の対応もできた。 ② キャリア教育や生徒向け講習については外部の講師を招き授業等を行ってもらうなど専門の機関の協力を得ることができた。例

員数の確保を行う。また、専門の機関（企業）の協力も進める。

③ 各校舎・各教科単位で内部研修を実施し、キラリ高校の職員として共通の認識の上で、教職員の組織化を推進する。また外部研修を活用して、多様な困難を有する生徒に対する支援強化を行い、各教職員の指導力・対応力を向上させる。（全体での教科研修の定例化）

④ 未履修・休学中の生徒・保護者へのアプローチを継続して行い、再履修および復学を促す活動をする。

家庭訪問の計画的実施を行う。

(3) 技能連携教育施設（各スクーリング会場）のカリキュラム(コース)の改編を推進し、通学タイプの充実を図る。

① より多くの生徒が通学タイプの全日スタイル選択しやすいように、コース内容の改編を図り、魅力溢れる内容転換を目指す。

② ①を推進するために、スクーリング会場ごとに担当を決め会議を行い、コース内容の検討・充実化を図る。

③ 他会場との連携および意見交換を積極的に行い、より綿密に個々の生徒へ対応する。また昨年来の課題であった授業研修を本格化させる。

(4) 吉田本校の整備・拡充

① 定着しつつある週 3 日の平日クーリング（ウィークリースタイル）を継続して実施し部活動・キャリアデザイン・インターンシップ・ボランティア等様々な活動を通じて、高校生活の充実を図る。

② 生徒の社会性を高めるために各種イベン

年以上に行政や福祉関連との関りも増えた。インターンシップについてはまだまだ課題が残っている。

③ 教員間で円滑な意思疎通を行い、生徒情報を効率的かつ効果的に共有することができた。さまざまな研修を取り入れ発達障害や緊急対策（対応）への意識が高まってきている。若い職員とのビジョンの共有をより強化したい。

④ 家庭訪問や電話連絡などの機会を多くしたことにより未履修・休学の生徒への働きかけは以前より進んでいる。定期的に連絡（訪問）もしているが復学に至らないケースもある。

(3) 技能連携教育施設（各スクーリング会場）のカリキュラム(コース)の改編を推進し、通学タイプの充実を図る。

① コース内容の再編も図られ、適宜改善しながら生徒一人ひとりにあった魅力的な授業（コース）の設定につとめた。昨年より満足度も上がった。

② 学力別にクラス分けをしながら対応し、学力差を埋めているが、まだまだ個々への対応（満足度）は検討の余地がある。なお、不登校傾向の生徒たちが全日スタイルを選択するには、さらなる授業内容の精査と生徒のニーズに合ったコース再編が望まれる。

③ 他会場のコース担当との意見交換を頻繁に行い、良いものは取り入れることができていく。同種のコースを選択している他会場の生徒同士の交流機会をさらに増やしたい。

(4) 吉田本校の整備・拡充

① 登校率も安定しており、学年を問わず交流が生まれている。積極的に学習する生徒が増えてきた。

② 生徒運営委員会・美化委員会・図書委員会等生徒自ら様々な形で学校に関わり、積極的に人と交わるにより主体性もでてき

トを企画することで、様々なニーズに合わせた学校生活の充実を図る。 (5) ICT教育及び、校務システムの整備事業 ① インターネット授業配信を円滑に進め、さらにレポート(添削指導)のデジタル化への移行準備を推進する。 ② 校務支援システムに関して、生徒増に対応すべくさらなる業務の効率化を図る為、システムの整備・拡充を図る。	た。特にオープンキャンパスの運営や文化祭・体育祭・クリスマス会の企画など多くの成功体験を残すことができた。 (5) ICT教育及び、校務システムの整備事業 ① 電子化されたレポートに合わせた問題設定もスムーズに進み、生徒の取り組みも順調だと感じている。 ② 全体的に業務の効率化が進んできているものの、個々の教職員の業務量改善にはもう少し時間がかかりそうである。
---	--

2. 生徒募集・広報活動

(1) 積極的に生徒募集・広報活動に取り組むことができた。

(2) 中学校(普通級・特別支援学級)・高等学校の訪問強化については、広報担当・会場長を中心に精力的に実施した。

(3) 説明会 ⇒ 全ての説明会において多くの生徒(保護者)・教諭に参加していただいた。

① 独自説明会(中学校教員対象) 11月中旬…吉田本校(志太・榛原地区)、浜松会場(西部地区)、静岡会場(中部地区)、沼津会場(東部地区)

② 各市町村教育委員会等説明会(不登校生徒・保護者・中学校教員対象)

③ 私学展(生徒・保護者)

→ 新しい集客方法を試しながら実施。結果、多くの生徒・保護者にご参集いただいた。

④ 社会教育課主催相談会(静岡市・浜松市・島田市・富士市・沼津市)

⑤ 企業が主催する通信制等に特化した進路イベント等への参加

⑥ フリースクールへの訪問と連携

⑦ グループが運営する障害福祉サービスとの連携

(4) 個別相談・学校見学 ⇒ 随時行い、多くの生徒・保護者に対してキラリ高校の魅力を説明し、出願増の基礎となった。

(5) オープンキャンパス・放課後説明会 ⇒ 【初夏～夏】5～8月【秋】9～11月【冬】12月～1月と位置づけ、例年より早い仕掛けをし、多く動員することができた。

吉田本校、浜松会場、静岡会場、沼津会場

(6) 生徒募集広告 ⇒ TVCM については前年と同様に実施。また、例年以上に Web 広告(Google、YouTube 広告や SNS 広告)の比率を上げ、広い層に告知を行った。

(7) ホームページの活用 ⇒ ホームページトップ画の動画化を含めリニューアルした。キラリ高校ら

しさを全面に押し出したものとした。また、Web による出願受付により、生徒・保護者への利便性が向上した。デジタルパンフレット・動画配信の活用を行った。

3. 令和 7 年度 在籍生徒数

	学校基本調査時 5月1日	前期卒業生(9月卒業生) 等を除外した最大在籍数
計画	1500	1500
結果	1664	1680

4. 教職員関係

区 分	職 名	男性	女性	計画
教 員	校 長	1		1
	副校長			0
	教頭・副教頭	1	1	2
	教諭・常勤	25	11	36
	養護教諭		6	6
	非常勤	6	5	11
職 員	本 務	3	4	7
	非常勤	3	6	9
計		39	33	72

5. 今後の課題

(1) 授業環境を重視するための教職員の確保。(TT の活用)

より効果的な Web・SNS 広告による募集。

(2) 困難を有している生徒の学業・就職支援 ⇒ 学業に関しては個別対応を丁寧に行う。就職に関しては進路担当を中心に就職先の拡大を図り、同時に就労移行支援機関との協力の下、実践的な就活指導や支援体制の強化を図る。

(3) 校務支援システムの更なるカスタマイズ。

(4) 図書室蔵書 5,000 冊設置 ⇒ 現在約 4,250 冊。図書基準に沿って蔵書を増やしていく。

(5) 認可基準に合致する施設設備の環境整備については、必要性が高い物から順に整備を進めていく。(本校移転を含めた体育館建設)

(6) オンライン(双方向)授業の確立。

現時点では、文科省・教育委員会の見解は、オンライン授業を正規の授業(単位認定)として認可していないが、オンライン(双方向)授業の確立は、今後のキラリ高校には必須課題となる。

(7) Wi-fi 環境の整備・通信機器の整備・教員のスキルアップ。